

令和7年度 学校評価報告書（目標設定 **実施結果**）

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価（中間報告）		学校関係者評価 (10月25日実施)	総合評価（3月10日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 新たに工業教育の充実と多彩な進路に対応する教育課程を提供する。 探究活動を通し、自らの課題発見と解決能力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①進路別の教育課程により多様な生徒のニーズに対応した進路支援を実施する。 ②工業教育の活性化を図り、探究活動を通して自己理解・自己管理能力、キャリアプランニング能力、課題対応能力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①進路別の必修選択により将来の進路に備えることができるよう支援を行い、生徒個々に合った教育課程の提供を行う。 ②資格取得やコンテスト等への参加を促し、より多くの生徒に成功体験を積み重ねる機会を提供することで、進路実現に向けた意識向上を図る。 ③実習や課題研究、総合的な探究の時間、向工 Fes 等の体験活動を積み重ね、自己理解・自己管理能力、キャリアプランニング能力や課題対応能力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①支援により進路別の必修選択を生徒が理解し、自己の将来に合わせた選択を行う事ができたか。 ②資格取得への取り組み状況は向上したか。工業に取り組み意識は向上したか。 ③探究活動や向工 Fes 等により自己理解・自己管理能力、キャリアプランニング能力や課題対応能力が向上したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①総合的な探究の時間、向工 Fes、外部講師による講習を通じて将来の進路について考え、次年度の必修選択を行うことができた。 ②ジュニアマイスターは前期で6名の申請があった。上級資格への挑戦も多数みられる。 ③実習や総合的な探究の時間、向工 Fes など体験を重視した活動を通じ、生徒の資質の向上が図れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①選択の偏りにより定員増で実施する科目がある。定員増でも授業の質の低下を生じない準備が必要である。 ②引き続き生徒の活動を支援し、成功体験による自己肯定感の向上に努める。 ③探究活動などにより、生徒の自己理解については資質の向上が見られたが、学び直しについては学習ソフト見直し、改善が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による講習などおおくの効果的な試みをしていて効果が上がっている。取り組みを更に進めて頂くのが良いと考える。 ・課題研究において、広い知識が必要であること、協働することを学び、大きな感動をえることができ、やって良かったとの感想を聞くことができた。3年生になってからは時間が足りないので1、2年生から関わりが持てる仕組みが必要と考える。 ・資格取得により更なる意欲向上に繋がった生徒が周囲にも好影響を与える等、全体の意識向上に繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ①2学年からの進路別の必修選択では3学年でより細分化した科目を選択させ、教育効果を高めることができた。 ②ジュニアマイスターは前期6名後期14名の申請があり上級資格も多数みられた。 ③実習、向工Fesなど体験を重視した活動を通じ、生徒の資質の向上が図れた。 ④外部講師や企業等との連携により、学校教育では得ることのできない経験を積み、生徒の資質向上が図れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①科目選択決定後に変更を希望する生徒が生じないよう個別の支援を充実させる。 ②引き続き生徒の活動を支援し、成功体験による自己肯定感の向上に努める。 ③探究活動等により、生徒の自己理解の資質向上が見られたが、学び直しの使用学習ソフトの見直し、改善を行い他校での実績が豊富な学習ソフトに変更する。
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体性、協調性の育成をめざし、学校行事や部活動等を推進する。 生徒の安心・安全な学校生活に向けて、生徒一人ひとりに応じた支援を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の主体的な活動として、生徒会、各委員会、部活動の活性化のための支援を行う。 ②生徒の状況把握に努め、生徒一人ひとりに寄り添った生徒指導・支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒会や各委員会の活動、学校行事で生徒の主体的な取組を実現できるよう支援する。 ②部活動集会等で部活動の意義を指導していくことで、部活動の活性化を図る。 ③問題行動の未然防止として、些細な情報も漏らさず、きめ細やかな対応を図る。 ④サポートドックを有効活用し、SCやSSWと協同することで、三者面談等の機会を通じて職員が生徒一人ひとりの課題に寄り添った対応を行えるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒会や各委員会活動、学校行事で生徒の主体的な取組が実現できたか。 ②部活動の加入率や活動日数が増加したか。 ③問題行動の未然防止により特別指導の件数が前年度より減少したか。 ④課題を抱える生徒について、職員間の情報共有を密にし、適切な教育相談窓口につなげることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①文化祭では、各団体が見通しをもって企画を運営できるよう支援している。また、生徒会を中心として来客者へのPR活動を充実させる企画を主体的に計画している。体育祭では部活動の生徒が活躍できる場面をより多く設定し、学校全体で部活動を盛り上げようとしている。 ②9月30日現在の発生件数が7件となり、昨年度26件より減少した。その中でSNSに関連した件数が増えているため、防止策を検討する必要がある。 ③2回のサポートドックの実施を通して、課題を抱える生徒を把握し、改めて教員と面談したり、SCやSSWとの相談の機会を設定したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①文化祭や体育祭で生徒が主体的に取り組めるよう、引き続き支援していく。 ②部活動については、生徒が互いに応援しあえるような関係を構築するため部活動集会等の機会を通じて働きかけていく。 ③3学年の指導件数が多かった。進路活動が落ち着いてきた今後も注意が必要である。学年集会や担任との連携により、卒業に向けて自覚を持たせる。 ④サポートドックには表れてこないものの悩みを抱えて不登校傾向にある生徒も一定数存在しており、そうした生徒に対する早期の支援を行うことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力向上・進路実現・学校生活の充実をバランスよく実現しようとする学校の取組みが明確に読み取ることができた。 ・生徒主体の文化祭にて生徒が工夫した点や苦勞した点を自分の考えを持って丁寧に説明してくれた。他者に説明する機会を貴重である。自分の言葉で説明する機会を増やしてもらいたい。 ・部活動については評価の観点に記載の加入率等を達成状況に記載して頂きたい。 ・問題行動の発生件数が大幅に減少している点は高く評価できる。一方で表面化していない案件が増えているか危惧する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①文化祭では各団体への貸付金を導入。販売計画の作成支援により利益金が昨年度の8万円から35万円に増加した。体育祭では部活動対抗リレーを新設し学校全体で部活動を盛り上げる機運を高めた。 ②部活動では仮入部の機会を増やし加入率が5月時点で昨年度の45%から47%に増加した。 ③3月4日現在の発生件数が13件で、昨年度の36件より減少した。学年と生徒支援Gと生徒指導Gが協力し、問題行動の未然防止に努めたい。 ④生徒支援について教育相談コーディネーターを中心にSC、SSWと連携し組織として取り組む機会を増やした。 	<ul style="list-style-type: none"> ①文化祭や体育祭では、生徒会役員や各委員会の活動をさらに充実させ、生徒がより主体的に活動できるように支援をしていく。 ②新入生が仮入部の機会を積極的に活用できるよう、4月の部活動紹介のやり方を刷新し、新入生と2、3年生の部員が交流できるような機会とする。 ③悩みを抱える生徒に対して早期に支援を行えるよう、日常的な情報共有の体制を整備していく。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価(中間報告)		学校関係者評価 (10月25日実施)	総合評価(3月10日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの進路実現に向け、社会的、職業的自立に向け、能力や態度を育成する。 生徒の多様な進路選択に向けた情報収集や情報整理能力を育成する。 	<p>①進路相談の時間を確保し進路選択における進路指導の充実を図る。</p> <p>②進路選択のミスマッチを防ぐため、専門業者と連携し、生徒の進路選択に向けた知識を広める。</p>	<p>①進路に関する生徒個々の相談時間を増やすため、ICTを活用した情報提供を行う。</p> <p>②専門業者と連携し、説明会・セミナー等を開催し、就職・進学についての情報提供の機会を増やすと同時に模擬試験や論文指導等の支援を行う。</p>	<p>①ICTの活用により、生徒がより多くの情報収集と相談時間の確保ができたか。</p> <p>②自己の実力を判断するため、進路情報等について理解し進路選択に役立てることができたか。</p>	<p>①求人情報など、ICTを活用した情報提供を行った。</p> <p>②専門業者を利用し、就職・進学についての情報提供や、求人票の見方・オープンキャンパスへの参加方法などの指導を行った。</p>	<p>①企業の訪問対応には、今年度もかなりの時間を費やすこととなったが、できる限り生徒の相談対応を心掛けた。</p> <p>②早い時期からの情報提供で進路に対する意識づけができたか検証が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用により効率的な情報提供ができています。 就職・進学両方の選択肢があることを前面に出した学校運営、進路指導を行い、入学希望者の増加、勉学意欲への就職・進学率の向上の良好な循環が図れると考える。 	<p>①ICTの活用により、生徒がより多くの情報収集をすることができた。ただ求人数が多すぎて絞り込むことが難しい面もある。</p> <p>②先生方の面接指導等への協力もあり、第一希望の内定率が88.5%と昨年度を上回るすることができた。</p>	<p>①1・2年生から進路に対する意識を持たせ、学校や企業の情報を得るよう指導をしていく。</p> <p>②効率的に履歴書や面接等の指導ができるよう、専門業者を活用していく。</p>
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> 「学校を核とした地域づくり」をめざして、地域と学校が相互に連携・協働して行う様々な活動を推進する。 中学校やその生徒、保護者へ向け、本校の魅力・特色を広報し、地域に根差した学校づくりを進める。 	<p>①積極的に地域や企業と連携し協働事業の活性化を図る。</p> <p>②本校の教育活動の魅力や特色が伝わるホームページ、説明会等の広報活動を行う。</p>	<p>①生徒の研究として実施している、ジュークボックス修理や自動ハンドベル演奏、特別支援学校への技術協力等を、地域や企業との連携により行う。</p> <p>②年3回行う高校体験(TECH LAB)、学校説明会の充実を図る。HPやInstagramの更新を積極的にを行い、本校の魅力や特色を広報する。</p>	<p>①連携企業・団体の数がどれだけ増えたか、関係者へのアンケートで活動の意義が認められたか。</p> <p>②説明会や体験会の満足度と魅力が伝わったか。HPの閲覧数やInstagramのフォロワー数は増加したか。</p>	<p>①地域で開催されたイベントにおいて、本校生徒数名が準備段階から参加し協力体制を築きながら活動を行った。</p> <p>②学校説明会やこれまで2度実施した高校体験(TECH LAB)においては、参加者全員から「満足」との回答を得ることができた。</p>	<p>①主催者より高い評価をいただき、次年度以降も継続的な参加を希望する旨の依頼を受けた。</p> <p>②一方で、募集定員に対する応募者数が満たなかったことから、今後はより高い関心を集める講座内容の企画・検討が必要であると考えられる。また、広報面においては、ホームページおよびSNSの更新頻度を高め、情報発信をより積極的に行う必要があると認識している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携により様々な体験の機会の提供ができたと思われる。 積極的な情報発信を行うことができた。 参加した生徒の満足度が高かったことから効果的な魅力発信ができたと評価できる。 	<p>①イベントや修理事業で成果を上げ、連携を深めることができた。一方で、時期調整不足による企業連携の断念や依頼品の未完成が課題となった。</p> <p>②TECH LABは好評でしたが、一部に定員割れもあった。学校説明会では生徒の協力のおかげで多くの関心を得られた。一方、SNS発信は思うように届かなかった。</p>	<p>①企業の繁忙期を考慮した早めの声掛けと、製作物の着実な進捗管理に努める。生徒と地域が共に成長できる連携活動をさらに充実させていきたい。</p> <p>②TECH LABでは、体験内容の再考や新規の講座を検討していく。Instagramによる広報活動は今後より一層重要視し、グループの枠を広げて情報発信に力をいれていきたい。</p>
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校と授業のICT化を支える情報管理を図る。 生徒の安心・安全な学校生活に向けて、防災教育・環境保全を推進する。 職員の資質向上や、風通しの良い職場づくりにより、事故不祥事防止を未然に防止する。 	<p>①生徒の資質・能力の育成と学校業務の効率化のため、ICTを効果的に活用する。</p> <p>②生徒が安心して過ごせる環境をつくるとともに、職員の事故不祥事を未然に防止する。</p>	<p>①ICT利活用を継続的に発展させていくため、ソフトウェアやハードウェアの整備をするとともに、業務を効率化させる研修を推進する。</p> <p>②清掃活動や防災訓練を通して、美化意識や防災意識を高める。</p> <p>③事故不祥事を防止するために、不祥事防止会議を職員会議後に行うとともに、気になることがある時は、学年や各教科などで組織的な対応をすることで、風通しのよい職場を推進する。</p>	<p>①授業や学校業務においてICTを効率的に活用できる環境を整えられたか。</p> <p>②清掃活動や防災訓練を通して、美化意識や防災意識を高めることができたか。</p> <p>③事故や不祥事を未然に防ぐことができたか。</p>	<p>①公務用PCを更新することで、スペックが上がって業務をスムーズに行える環境を整えた。</p> <p>②防災訓練では、東日本大震災を福島県で経験された先生を講師として招き講演会を行うことで、防災意識を向上させることができた。</p> <p>③職員の不祥事を起こさないよう組織的な対応をすることで未然防止に努めた。会計担当者向けの研修会を開き私費会計基準等について説明した。</p>	<p>①持ち運びのしやすいタブレットの購入を計画している。今後は購入に向けて動きたい。</p> <p>②日課清掃が十分とはいえない時があるため、生徒や職員の美化意識を高めていきたい。</p> <p>③私費会計の手引きなど、新しく改定された内容などについて、業務に必要な情報を確実に発信していくようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 情報機器等の環境整備は順調に進められた。 防災面での意識向上は図られた一方で、美化意識については継続的な啓発が必要である。 教育課程、生徒指導、進路指導、学校運営の各側面が相互に関連付けられ、計画的に整理されている点は評価できる。今後も成果や課題を共有しながら改善を重ねていくこと、より一層魅力ある学校づくりに繋がっていくことを期待する。 	<p>①電子黒板の導入や、公務用PCの更新など、学校内の情報端末の環境整備を進めることができた。一方で、教室においては、電子黒板が大きく教室のレイアウトに支障をきたすなどの課題も見えた。</p> <p>②年三回の防災訓練を通じて生徒の防災意識を高められた。一方で美化意識の向上に向けた啓発の必要性を感じている。</p> <p>③不祥事防止は職員向けの研修を適宜行った。風通しのよい職場環境を整えていくためのコミュニケーションや、職員室の座席配置などを継続的に検討していく必要がある。</p>	<p>①新工場棟の完成した後に各教室の環境整備や、余剰状態になっている大型モニターの再活用を進めていく。</p> <p>②特に、美化意識の向上に向けて、例えば、週に一回は「一斉清掃の日」のような形で意識を高められる習慣が整えられないか検討していく。</p> <p>③風通しの良い職場づくりに向けて、各教科、各学年、管理職の考えを集約し、進められることからひとつずつ対応にあたる。</p>